

子宮鏡を用いた 観察(診断)・検査・治療

Point

- ① 子宮鏡とは、「観察(診断)」、「検査」、「治療」を行うことができる器具です。
- ② 子宮鏡で子宮内腔を診ることで、不妊症の原因となりうる病気の観察や検査ができます。
- ③ 子宮鏡手術には、外来で麻酔なしで行うものと、入院して麻酔をして行うものがあります。
- ④ 従来の子宮鏡とは異なるモルセレーション器具(*1)により、手術の安全性の向上が期待されています。

子宮鏡とは？

子宮鏡とは、腔から子宮内腔(子宮の内側)に挿入する胃カメラのような器具のことで、観察(診断)、検査、治療を行うことができます。

子宮鏡は、目的により使用する器具が異なります。

表1：子宮鏡の種類

軟性子宮鏡	柔軟性がある子宮用の内視鏡です。
硬性子宮鏡	<ul style="list-style-type: none"> • 細径硬性子宮鏡(外来用) 直線状の細い管の子宮用内視鏡です。 • レゼクトスコープ(入院手術用) 直線状の太い管の子宮用内視鏡です。病変を除去する機能があります。
モルセレーション器具	病変を細かく刻み、小さくして回収することで切除できる新しいタイプの硬性子宮鏡です。

子宮内膜(子宮の内腔を覆っている膜)が厚い時期や、出血があると観察ができないため、月経10日目前後に行うのが望ましいとされています¹⁾。

子宮鏡でできること

子宮鏡を使うことで、不妊症の原因となる病気の「観察(診断)」、「検査」、「治療」を行うことが可能です。

■子宮鏡で観察(診断)できる病気

子宮鏡により子宮内腔を観察することで、不妊症の原因となりうる以下の病気や状態がわかります。

表2：子宮鏡で観察できる病気

慢性子宮内膜炎	子宮内膜に慢性の炎症がある状態で、不妊症の原因になります。
アッシャーマン症候群(子宮内腔癒着)	子宮内膜の炎症などにより、子宮内腔が癒着により狭くなった状態です。不妊症の原因になったり、経血量が減るなどの症状が起こります。
子宮筋腫	子宮の筋層にできる良性の腫瘍です。
子宮内膜ポリープ	子宮内膜にできる良性の腫瘍です。
子宮奇形	生まれつき、子宮が本来と異なる形をしていることがあります。自覚症状はほとんどありません。

■子宮鏡で行う検査

子宮鏡を用いる検査には、次のような検査があります。

- 選択的卵管通水法
子宮鏡で見ながら細い管を片方の卵管に入れ、色素液を注入して通過性を確認する検査です。卵管が詰まっているか確認できます。保険適用はされていません。
- 子宮内膜生検
子宮鏡で子宮内膜の組織を採取して、顕微鏡で調べる検査です。慢性子宮内膜炎の診断ができます。

■子宮鏡で行う治療 ※表1、表2参照

子宮内膜ポリープや子宮筋腫を摘出したり、アッシャーマン症候群(子宮内腔癒着)による子宮内の癒着を取ることができます。

子宮鏡手術には、外来で麻酔なしで行うものと、入院して麻酔をして行うものがあります。

- 外来で行う手術(麻酔は使いません)
軟性子宮鏡または細径硬性子宮鏡を用いて、子宮内膜ポリープを取り除く「子宮内膜ポリープ切除術」や、癒着した子宮内腔の組織をはがす「子宮内腔癒着剥離術」があります。
- 入院して行う手術(麻酔を使います)
硬性子宮鏡のレゼクトスコープを用います。外来で行う子宮鏡手術では治療できない症例に対して、治療が可能です。

従来の子宮鏡とは異なるタイプのモルセレーション器具は、病変を吸引しながら小さく切って摘出することが可能です。今後、手術の安全性の向上が期待されています。

子宮鏡が不妊治療に果たす役割

子宮内膜の近くにできる子宮筋腫(粘膜下子宮筋腫)があると、妊娠率や着床率が低下することが報告されています²⁾。また、子宮鏡で子宮内腔の形を観察して子宮奇形を発見し、子宮奇形に対する手術を

行うことにより、流産率が低下することが報告されています³⁾。

さらに、子宮鏡で慢性子宮内膜炎を診断して治療をすることで、反復着床不全(*2)の女性の胚移植(受精卵を子宮内に移植する手術)当たりの妊娠率が高くなることがわかっています⁴⁾。慢性子宮内膜炎の診断には、視覚的・組織的にアプローチできる子宮鏡の有用性が高まっています。

用語解説

*1:モルセレーション器具

病変を細かく刻み、小さくして回収することで切除できる新しいタイプの硬性子宮鏡です。

*2:反復着床不全

体外受精で状態の良い胚(受精卵)を複数回、子宮内に移植しても妊娠しない状態。

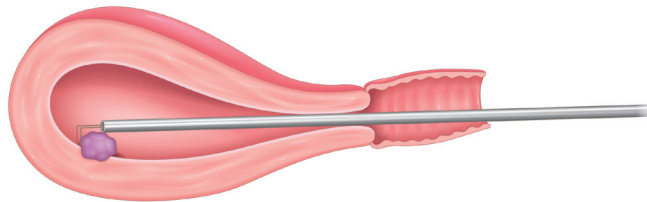


図:子宮鏡による子宮筋腫摘出

【参考文献】

- 1) 福井淳史. 子宮鏡の基礎: 4 適応と禁忌, 実施時期. 子宮鏡 新常識を極める. 日本子宮鏡研究会編. 56, (株) メジカルビュー社. 2019.
- 2) Pritts EA, et al.: Fibroids and infertility: an updated systematic review of the evidence. *Fertil Steril.* 91(4):1215-1223, 2009.
- 3) Venetis CA, et al.: Clinical implications of congenital uterine anomalies: a meta-analysis of comparative studies. *Reprod Biomed Online.* 29(6):665-683, 2014.
- 4) Cicinelli E, et al.: Prevalence of chronic endometritis in repeated unexplained implantation failure and the IVF success rate after antibiotic therapy. *Hum Reprod.* 30(2):323-330, 2015.